

News Letter

ニュースレター



名古屋銀行

2022年9月28日



「めいぎんサステナビリティ・リンク・ローン」及び 「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の契約締結について ～藤久運輸倉庫株式会社のサステナブル経営をサポート～

名古屋銀行（頭取 藤原 一郎）は、藤久運輸倉庫株式会社（代表取締役 久米 博明）と「めいぎんサステナビリティ・リンク・ローン」及び「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の契約を締結いたしましたのでお知らせします。

当行は、今後もグループ一体となり、銀行の既存のビジネスモデルに捉われない持続可能な収益機会の創出及び付加価値の高いサービスを提供し、さまざまなお客さまの経営課題解決を通じて地域社会とともに未来を創造してまいります。

記

1. めいぎんサステナビリティ・リンク・ローンの契約概要

契約締結日	2022年9月28日（水）
融資金額	50百万円
融資期間	5年
資金使途	事業資金
SPTs※1	2030年までに2020年度対比で42%のCO2削減目標（SBT※2認証済「1.5℃目標」）を達成する為のマイルストーンとして、2021年度決算期から2025年度決算期までの5期間において2020年度決算対比で21.0%のCO2排出量を削減する（毎年の目標設定あり）

※1：「SPTs」（Sustainability Performance Targets）とは、お客さまが定めた社会の持続可能性に対する貢献度合いを測ることが出来る、野心的目標数値のことです。

※2：「SBT」（Science Based Targets）とは、パリ協定が求める水準（世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求する）と整合した、企業が設定する温室効果ガス排出量削減目標のことです。

2. めいぎんポジティブインパクトファイナンスの契約概要

契約締結日	2022年9月28日（水）
融資金額	50百万円
融資期間	5年
資金使途	事業資金
PIF評価書	添付資料をご参照ください

※株式会社格付投資情報センター（R&I）のセカンドオピニオンは、下記URLをご参照ください。

<https://www.r-i.co.jp/rating/esg/index.htm>

3. 藤久運輸倉庫株式会社の概要

代 表 者	久米 博明
本社所在地	愛知県刈谷市宝町五丁目 1 番地
業 種	一般貨物自動車運送業
設 立 年 月	1957 年 1 月

＜記念盾贈呈式の様子＞



株式会社名古屋銀行
常務取締役 山本 克俊

藤久運輸倉庫株式会社
代表取締役 久米 博明 氏

※写真撮影時のみマスクを外しております。

参考：「めいぎんサステナビリティ・リンク・ローン」の取り扱い開始について

<https://www.meigin.com/release/files/312481e055bb50eeb092d465bbe6fd4d2b2a64a3.pdf>

「めいぎんポジティブインパクトファイナンス」の取り扱い開始について

https://www.meigin.com/release/files/20220111meigin_PIF.pdf

以 上

ポジティブインパクトファイナンス評価書

～藤久運輸倉庫株式会社～



2022年9月28日
株式会社名古屋銀行
法人営業部 法人コンサルティンググループ

はじめに

株式会社名古屋銀行は、藤久運輸倉庫株式会社に対し、めいぎんポジティブインパクトファイナンス（以下、めいぎん PIF）を実行した。

本件取組にあたって、株式会社名古屋銀行は国連環境計画金融イニシアティブ（以下、UNEP FI という。）が策定した「ポジティブインパクト金融原則」及び、環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則り、藤久運輸倉庫株式会社の企業活動における包括的なインパクトを分析し、充実したサステナビリティ経営に向けた KPI を設定した。

借入人概要

借入企業	藤久運輸倉庫株式会社
所在地	愛知県刈谷市宝町 5 丁目 1 番地
従業員	200 人
売上高	3,493 百万円
事業内容	一般貨物自動車運送業

融資条件概要

融資形態	証書貸付
融資金額	50,000,000 円
資金使途	運転資金
融資・モニタリング期間	5 年

目次

1. 企業情報	
①会社概要	
②沿革	
③組織図	
④社訓・企業理念	
2. 事業内容	
①ネットワーク物流	
②調達物流	
③生産物流	
④販売物流	
⑤国際物流	
3. その他の活動	
①「安全・健康」に関する取組	
②「環境」に関する取組	
③「社会貢献活動」に関する取組	
④「BCP対策」に関する取組	
4. インパクトの特定	
①インパクトマッピングによるインパクト分布	
②インパクト分布図	
③国内のインパクトニーズ	
④海外のインパクトニーズ	
5. 測定する KPI	
①ポジティブインパクトの拡大	
②ネガティブインパクトの縮小	
6. インパクト管理体制	
7. モニタリング方法	
8. 総括	



1. 企業情報

①会社概要

会社名	藤久運輸倉庫株式会社
創業年月	1957 年 1 月
資本金	45 百万円
代表者	久米 博明
決算日	12 月 31 日
従業員数	200 人
本社所在地	愛知県刈谷市宝町 5 丁目 1 番地
事業内容	①一般区域貨物自動車運送事業 ②倉庫業 ③石油製品などの販売業 ④車輛の運行管理、運転および保守・点検に関する請負事業 ⑤工場・倉庫等における物品の仕分け、梱包、充填及び作業の請負 ⑥不動産賃貸業 ⑦物流関連情報とコンピューターソフト開発・販売および運営管理 ⑧貨物軽自動車運送事業 ⑨記録紙の販売 ⑩産業廃棄物収集運搬業
営業所	【本社】 愛知県刈谷市宝町 5-1 【営業統括本部・FJK Logistics sales department】 ・東京オフィス 東京都中央区京橋 3-1-1 東京スクエアガーデン 14 階 106 ・大阪オフィス 大阪府大阪市北区曽根崎新地 1-13-22 御堂筋フロントタワー3 階 107 【首都圏事業部】 ・東京営業所 東京都大田区平和島 6-5-1 TRC 物流ビル C 棟 D ブロック ・北関東営業所 群馬県館林市本町 1-1-54 創楽ビル 2F 【関西事業部】 大阪府大東市新田北町 4-47 【刈谷物流センター】 愛知県刈谷市半城土町大組 6-1

【東刈谷倉庫】

愛知県刈谷市東刈谷町 2-12-1

【刈谷地区部品デポ】

愛知県刈谷市宝町 3-4

【小垣江物流センター】

愛知県刈谷市小垣江町東高根 70

【豊明物流センター】

愛知県豊明市阿野町昭和 61-1



本社



刈谷物流センター



小垣江物流センター



第1、第2倉庫



刈谷地区部品デポ



豊明物流センター

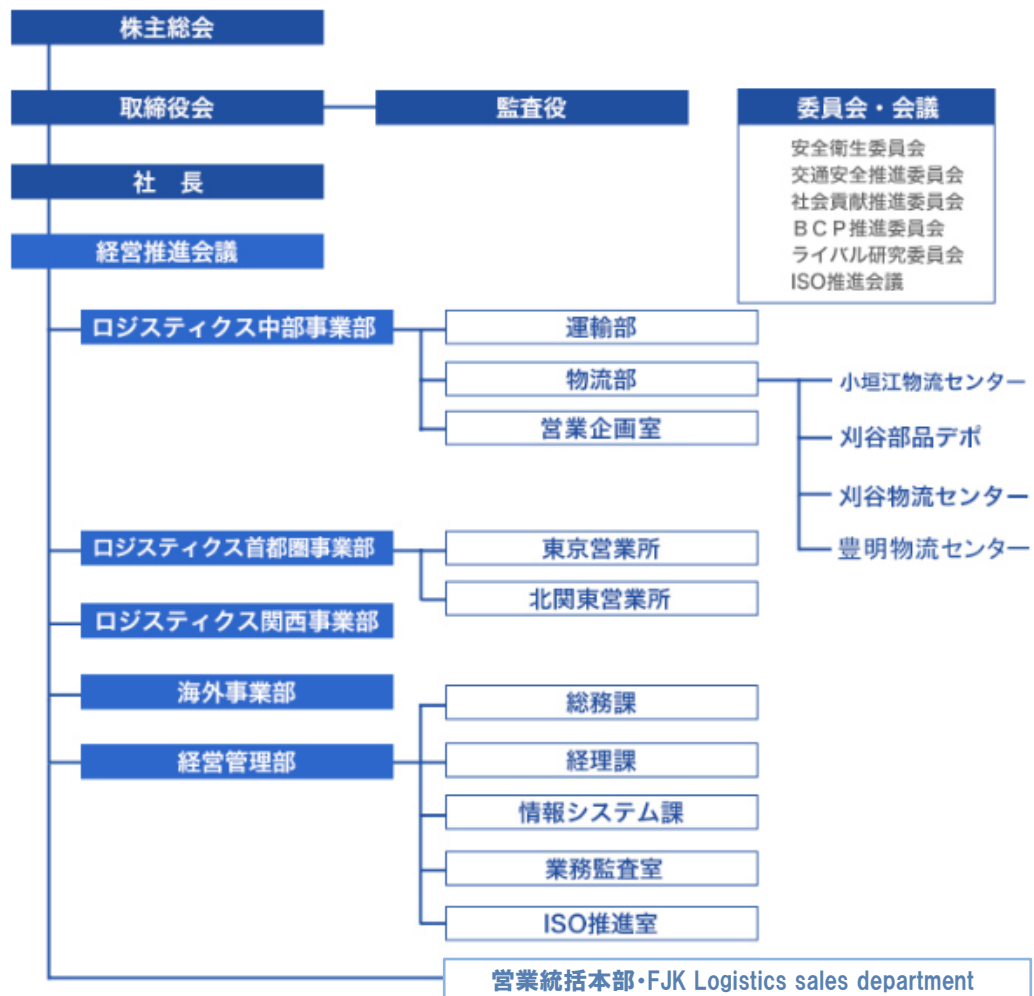


②沿革

年月	概要
1957 年 1 月	大府市共和町にて(株)藤久運輸設立
1967 年 3 月	一般区域貨物自動車運送事業免許取得
1968 年 3 月	本社営業所を刈谷市宝町に移転
1969 年 3 月	大阪営業所を大東市に、東京営業所を戸田市に開設
1970 年 4 月	営業倉庫業の認可取得
1971 年 2 月	刈谷物流センターを刈谷市半城土町に新設
1975 年 9 月	現商号に変更
1982 年 11 月	(大阪府)一般区域貨物自動車運送事業免許取得
1988 年 6 月	京葉営業所を船橋市に開設
1990 年 8 月	(首都圏)一般区域貨物自動車運送事業免許取得
1996 年 3 月	大阪営業所営業倉庫認可
1996 年 7 月	営業区域を京阪神圏に拡大
1997 年 5 月	刈谷物流センター増設
1998 年 7 月	営業区域を中部圏に拡大
1999 年 1 月	貨物自動車運送事業（二輪）の届出
1999 年 8 月	営業区域を関東甲信越に拡大
2001 年 6 月	産業廃棄物収集運搬業（愛知県）取得
2002 年 10 月	京葉営業所を統合し、大田区にて東京営業所として営業開始
2003 年 8 月	ISO14001 認証取得
2004 年 12 月	ISO9001 認証取得
2005 年 8 月	大阪営業所グリーン経営認証取得
2008 年 1 月	東京営業所を関東事業部、大阪営業所を関西事業部に改称 中部・関東・関西の3事業部制導入
2011 年 7 月	関東事業部を関東事業部東京営業所に改名 関東事業部埼玉営業所を開設 産業廃棄物収集運搬業（愛知県）取得
2011 年 9 月	第5倉庫を刈谷地区部品デポとして稼働
2012 年 11 月	埼玉営業所を東京営業所に統合
2013 年 1 月	海外事業部門設立

2014 年 11 月	刈谷物流センター新棟増設
2015 年 7 月	ISO39001 認証取得
2016 年 6 月	春秋航空と代理店契約
2018 年 7 月	ISO9001 認証返納
2018 年 9 月	ISO14001 (2015 版 認証取得)
2019 年 1 月	小垣江物流センター新棟増設
2019 年 8 月	北関東営業所を館林市に開設、関東事業部を首都圏事業に改称
2020 年 4 月	営業統括本部を江東区に開設
2022 年 4 月	営業統括本部を大阪市へ移転
2022 年 4 月	豊明物流センターを豊明市に開設

③組織図



④社訓・企業理念

一、社会貢献

社業を通じ、経済・社会の発展に貢献する

一、公明正大

法令およびその精神を遵守し、公正で透明な企業活動を実践する

一、信頼、感謝、尊敬

常にお客様の立場にたって、信頼・尊敬の念を抱き企業活動をおこなう

一、改善、進化、進歩

現状に満足せず、常に改善していく姿勢を持ち、
社員個々の能力アップにより、会社全体を変革していく

一、全員参加

ひとり一人の個性と能力を伸ばし、活力ある企業風土をつくる

経営方針

私たちは、お客様に喜ばれる仕事を通じて、世の中の発展と繁栄に貢献し、あわせて社員全員の成長を願う、運命共同体としての同志と、下記の三つのメリットが一致するような経営をおこなうことにより広く社会に奉仕する。

一、お客様第一主義

一、安全に徹し、環境に配慮し、

私たち全てを結集して新たな価値を創造することに挑戦

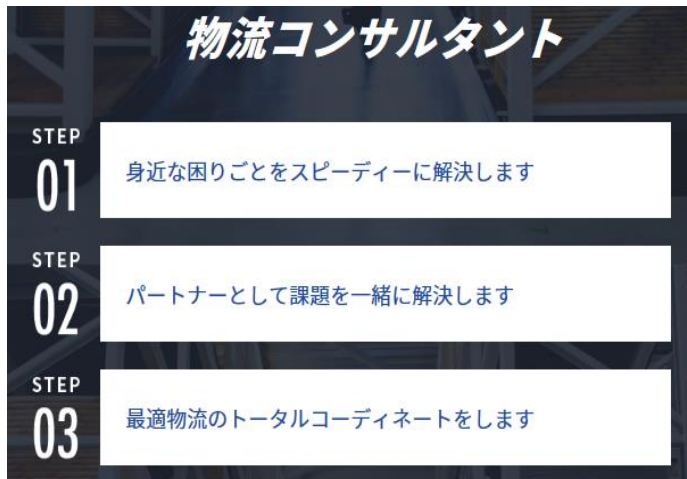
一、いつの時代にも社会から信頼され、

愛され、尊敬されることを誇りに行動する

当社は、社会貢献、ガバナンス、CS、ES に対する理念を掲げており、自社の経済活動から CSR 活動の基本姿勢となっている。また、経営方針についても顧客第一主義及び社会奉仕の精神を基礎とした仕事を企業一丸となって取り組むことで企業価値を高めていくことを実践している。この基本理念・経営方針は社員一人一人に浸透しており、自社の活動や様々な取組が広く共有出来る職場環境にある。

2. 事業内容

当社は、1957 年愛知県大府市にて(株)藤久運輸として設立。以降、中部・関東・関西圏に拠点を構え、製造業の集積する三河を主体に事業を拡大して来た。大手自動車関連メーカーや印刷・紙パルプメーカーなどの物流サポートとして、輸送、保管、管理だけでなく流通加工などトータル物流サービスを提供している。事業について大きく分けると、ネットワーク物流、調達物流、生産物流、販売物流、国際物流に区分されるが、それぞれの事業が相対的に関連性を持っており、顧客ニーズに合わせて事業を跨いだ物流ソリューションを展開している。



当社は、自社の物流ソリューションを、「物流コンサルタント」として位置づけ、①入口の困りごとの解決②パートナーとして課題発見・解決③全体の物流コーディネートという 3 つのステップで展開している。関東・関西圏の営業拠点と本拠地とのシナジーにより、広範囲且つ効率的な物流ネットワークを顧客に展開することを可能にしている。

①ネットワーク物流



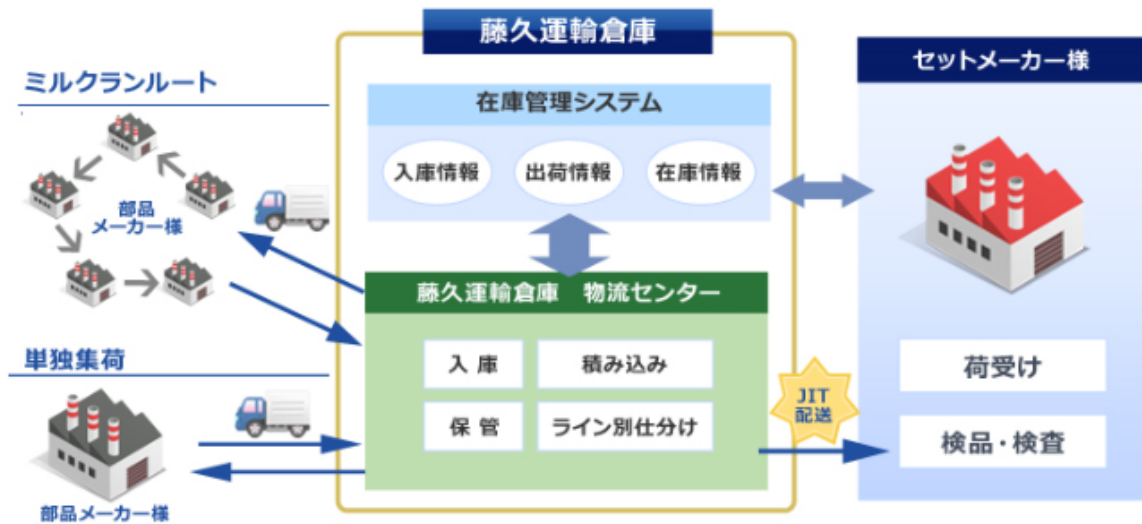
ネットワーク物流イメージ

当社のビジネスの根幹にはネットワーク物流事業がある。様々な業種の、主に BtoB において車両単位及び中小ロットの荷物を運びたい全般が対象となる。当社の 関東・中部・関西にある主要拠点に物流センターを併設し全国をカバーしながら、豊富な当車両数と協力企業の車両で、ニーズに合わせてベストな輸送をコーディネートしている。効率的なルートによる物流輸送により CO2 排出量の削減にも貢献している。

②調達物流

ネットワーク物流に加えて、保管・納品におけるサービスが調達物流事業である。部品メーカー・協力会社から部品・製品を引き取り、集約した倉庫で一時保管する。顧客や納品先の生産計画および発注情報に基づき、生産ラインへ直結した業務を支援し、スムーズな物流と生産をサポートしている。また、現状の顧客の仕入れ調達ルート、コスト、スキームなどを調査分析し、最適な物流サポートを提案することで新たな付加価値を創造し、ジャスト・イン・タイムで各工場・物流センタ

一のラインへの納品を実現させる。情報と一体となった『必要なものを』『必要なときに』『必要なだけ』提供し、情報の“見える化”を実現した安心できるサービスとなっている。

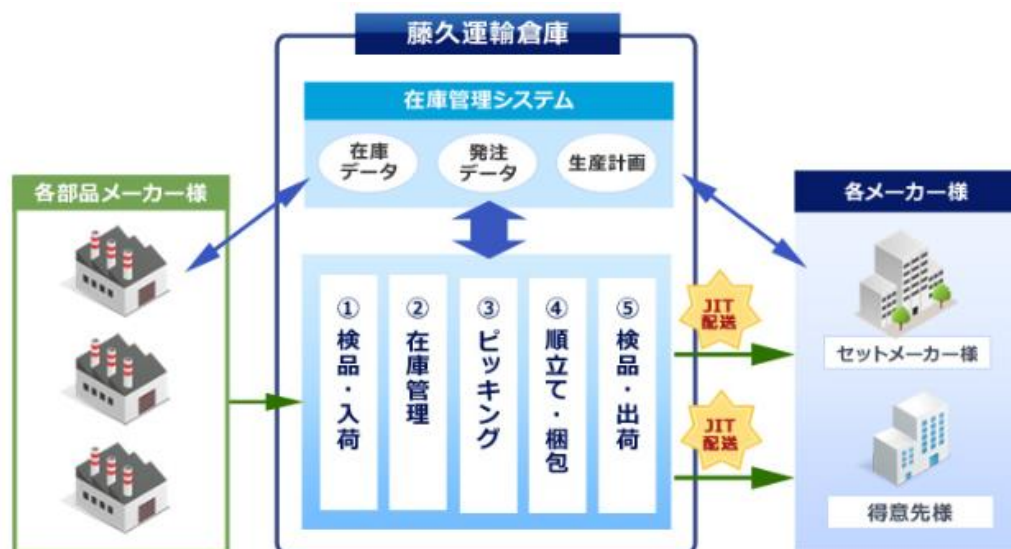


調達物流イメージ

調達物流事業の対象は、主に工場内、自社内で一時ストックの置場が手狭になっていたり、生産・販売計画に沿った納入が必要な事業者、納入が煩雑であり、受け入れ業務の改善が必要な事業者、あらたに工場稼働を計画している事業者など多岐に亘っている。ミルクランによる定期的かつ効率的な部品回収から一時保管を請け負うことで、商品劣化や課題在庫といった問題点を解決しおり、廃棄物、不良品の減少にも貢献している。

③生産物流

生産物流は主に製造業のサプライチェーンを仲介し、生産性をより効率的にすることを可能にしている。工場内及び自社内の物流、発送管理をはじめとして、製品輸送など製造業の物流や作業の一部負担をすることで支援している。

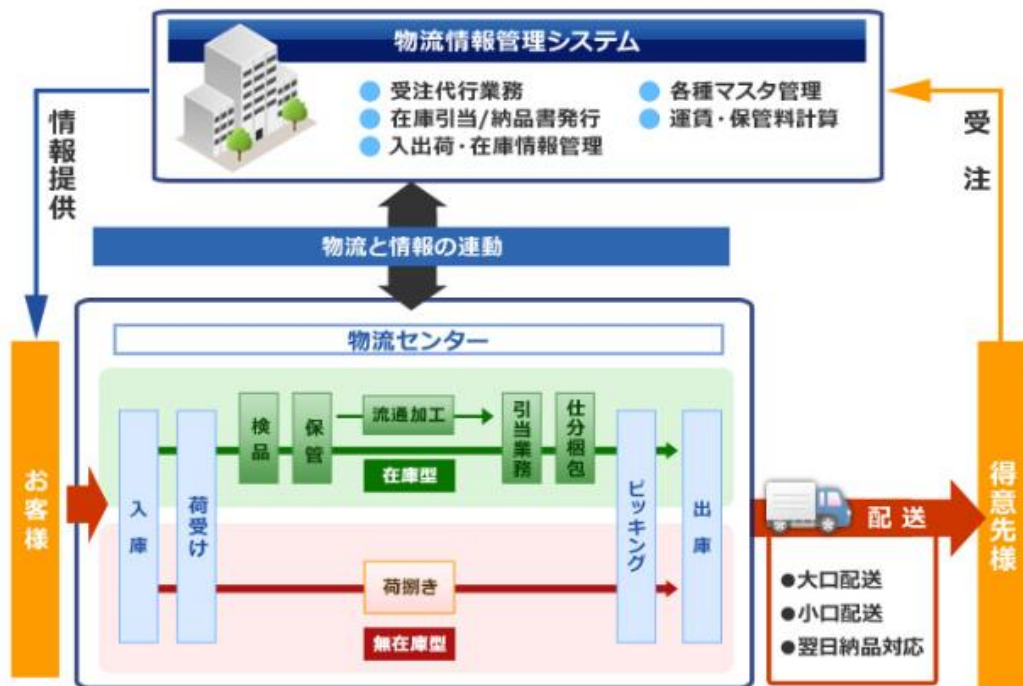


生産物流イメージ

自社で実施する作業については、上記イメージにある通り①検品・入荷、②在庫管理、③ピッキング、④順立て・梱包、⑤検品・出荷の流れにより、生産活動におけるあらゆる物流業務を代行する。少量・多品種製品発送や製品の小分け・包装加工、情報資源による在庫管理、入出庫検品による誤入出荷の排除など、高品質な作業を徹底し、顧客の生産性向上及び満足度向上に励んでいる。

④販売物流

販売物流は、顧客の販売先への在庫管理、倉庫内作業、納品物流をサポートする。顧客の取引先からの受注を、物流情報管理システムを経由して管理を行い、受注に合わせて顧客から入庫された製品や部品を受注先へ納品する仕組みである。



販売物流イメージ

顧客から入庫された製品は荷受けから検品・保管を含めて納品する在庫型と、入庫後にスピーディーに受注先へ納品する無在庫型があり、顧客の販売先への納品形態に合わせたソリューションを提供している。

⑤国際物流

当社は、グローバル化する生産・調達の現場に於いて、日本企業の海外ビジネス支援、海外製品輸出入に関するビジネス支援、パートナー企業調査、契約、検品、輸入代行に至るまであらゆる局面で御社のビジネスをサポートする為、海外事業部を発足させている。海外からの部品調達、国内で販売している商品の海外への輸出、海外現地での協力会社の紹介等、さまざまなニーズに対応する為の情報網を拡大している。

3. その他の活動

当社は、CSR基本方針を策定している。CSR基本方針は、「お客様」「地域社会」「取引先」「従業員」で構成されており、前述の社訓・経営理念と相関的に作用しており、役員だけでなく従業員一人一人に意識された行動規範となっている。

CSR基本方針

私たちは、法令およびその精神を遵守し、オープンでフェアな企業活動を通じて、社会から信頼され、愛され、尊敬される企業を目指し、次のとおり全てのステークホルダー（お客様、地域社会、取引先、従業員など）を重視した事業活動をおこない、社会・地域の調和のとれた持続可能な発展に貢献します。

お客様

私たちは「お客様第一」という信念に基づき、お客様が安全・安心を得られるために、且つお客様のさまざまな期待に応えるために、お客様に真にご満足いただける優れたサービスの開発と提供に努めます。

私たちは道路交通法、道路運送法、貨物自動車運送事業法など関連法令およびその精神を遵守し、お客様に信頼される営業活動を推進します。

私たちは個人情報保護およびその精神を遵守し、お客様の個人情報保護の徹底に努めます。

地域社会

私たちは事業活動を通じて環境保全に努め、地球環境・地域社会との調和ある成長を目指します。

私たちは社会・経済の要請に応え、法令を守り「人間性尊重」の経営を実践します。

私たちは豊かな地域社会づくりを目指し、社会貢献活動を積極的に推進します。

私たちは交通安全対策へ積極的に取り組みます。

取引先

私たちは取引先を尊重し、長期的な視野に立ち、相互信頼に基づく共存共栄の実現に取り組みます。

私たちは独占禁止法、下請法をはじめとする関連法令およびその精神を遵守し、公平かつ自由な取引をおこないます。

従業員

私たちは労働関連法令の遵守はもとより、従業員が生き生きと働けるように、相互信頼・相互責任の精神に則り、お互いを思いやり、それぞれの考え方や立場を尊重します。

私たちは従業員が誠実に仕事に取り組み、チャレンジ精神を大切に、新しい価値の創造を目指すことができるよう個々の自己啓発・成長を支援します。

私たちは安全で健康的な職場づくりに努めます。

私たちは機密情報を厳重に取り扱うと共に、適時適確な情報開示に努めます。

また、ESGに関する取組を数多く実施しており、SDGsが宣言されてからは当社のこれまでの取組を更に拡大し、サステナビリティ経営の充実を図っている。2020年にはSDGs宣言を制定し、「安全」、「環境」、「社会貢献活動」、「BCP対策」の4項目を柱にレポートの作成、決算ごとの

データ収集を実施することで改善を図っている。

特に、地域貢献については刈谷市社会福祉協議会へリサイクル資源売却代金、古切手等の寄贈や、刈谷市役所への健康用品の寄贈を通して、地元住民や自治体への貢献度は突出している。

①「安全・健康」に関する取組

当社は「安全」に関する取組として交通安全の施策や地域と連携した啓蒙活動に加え、従業員の幸福度を含めた健康経営の分野も同カテゴリとして実施している。

・ISO 39001 認証の取得



2015 年 7 月に中部事業部 運輸部にて認証取得

登録証番号：JQA-R T0050

登録活動範囲：一般貨物の輸送サービス

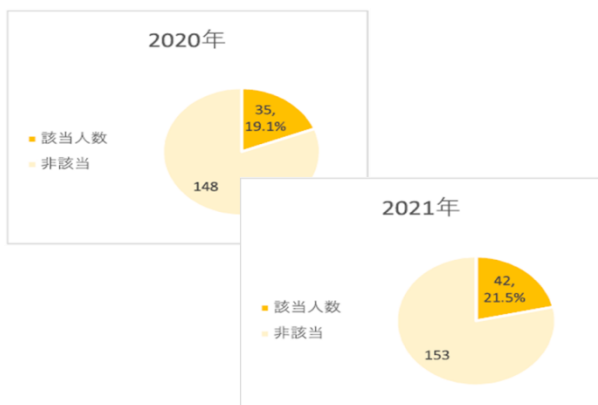
当社は事故防止研修会の実施、ヒヤリハット情報収集・活用、交通事故予防システムの運用等の交通事故撲滅への取組を日々実施している。

・安全教育



安全教育への取組として事故防止研修会や交通安全研修会、トラックセーフティラリーへの参加、社員による立哨活動を通して、社内外に対して啓蒙活動を実施している。

・健康経営の取組



当社は健康経営優良法人認定制度ブライト 500 を取得しており、自社の健康経営の「見える化」、「戦略的な取組」を実施している。

その一環として、2020 年から「健康経営優良社員表彰規定」を設け、目標達成社員の表彰及び、啓蒙を実施している。

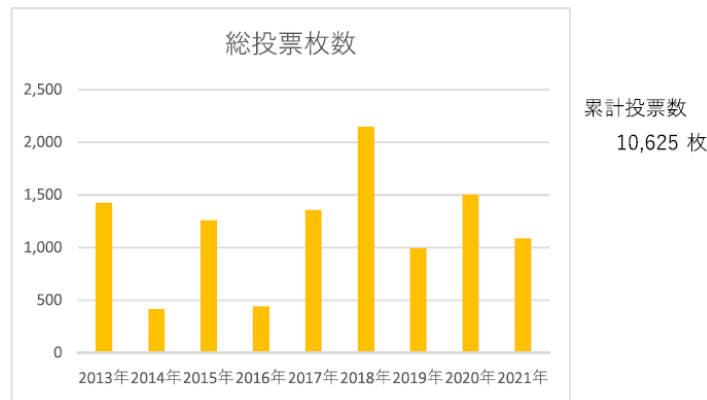
尚、2021 年決算期での優良社員該当者は 42 人であり、引き続き増加へ向けて取組を実施する。



また、従業員の健康経営及び安全管理の為、定期健康診断に加えて、「睡眠時無呼吸症候群検診」「脳ドック検診」「血圧測定」「ストレスチェック」等の実施により日頃から従業員の健康・安全管理を徹底している。コロナ禍以前ではウォーキング大会への参加も実施し、コロナ禍以降はウォーキングを兼用した広域地域清掃活動を実施している。

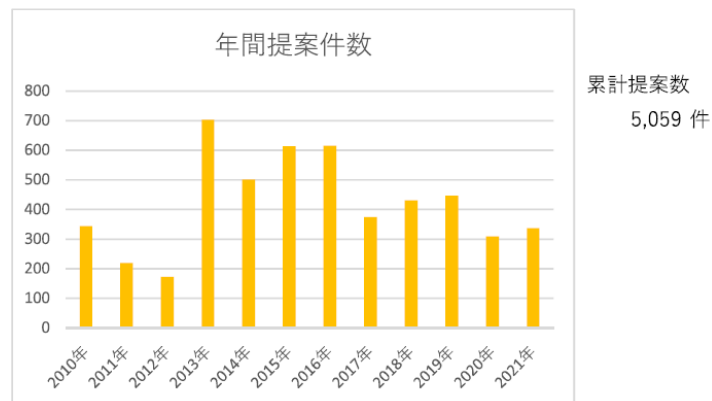
・従業員の幸福度、職場環境改善

当社は 2013 年より毎月 10 日を「藤久感謝の日」として身近な人への感謝を伝える日と定めている。当社の従業員が感謝を伝えたい人に対して贈るカードを「サンクスカード」として送る制度であり、年間で最もサンクスカードを投票した人、得票した人を表彰している。2021 年度までに累計 10,625 枚のサンクスカードが送られており、従業員の働き甲斐の向上に貢献している。



サンクスカード投票数推移

職場環境改善について、従業員からの改善提案制度を設けている。日々の業務において現場の従業員が実施した改善策を報告・相談・提案する仕組みとなっており、実施効果等をランク分けしており年末に表彰を実施し、従業員のモチベーションアップに貢献した取組となっている。



改善提案件数推移

・交通安全広報車



交通安全・交通事故防止の啓蒙活動の一環として、刈谷市朝日幼稚園の園児が書いたイラスト入りの横断幕を作成しトラックにラッピングした。また、「悪質交通違反防止啓発キャンペーン」が刈谷ハイウェイオアシスにて開催された際に、交通安全広報車として展示、啓発のためのキーホルダー配付を実施し、交通安全を呼びかけた。

②「環境」に関する取組

・ISO14001 認証の取得

当社は環境保全の為にISO14001を取得しており、①省エネルギーの推進（電気使用量の削減）、②天然資源の有効活用（コピー用紙使用量の削減）、③廃棄物の削減（焼却・埋立廃棄物の削減）、④環境に配慮した取組・活動（環境美化活動）に対し取組を実施している。2021年度の実績は下記の通りである。



①省エネルギーの推進 電気使用量の削減

目標： 32,033 k Wh/年
結果： 34,969 k Wh/年 達成率： 92%

②天然資源の有効活用 コピー用紙使用量の削減

目標： 25,854 枚/年
結果： 21,954 枚/年 達成率： 118%

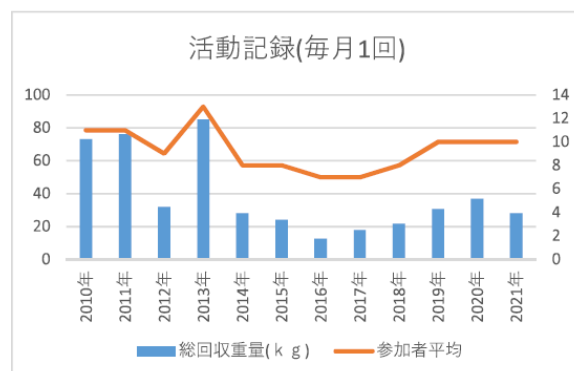
③廃棄物の削減 焼却・埋立廃棄物の削減

目標： 128,11 k g/年
結果： 130,27 k g/年 達成率： 98%

④環境に配慮した取組・活動 環境美化活動

目標： 地域清掃活動の実施/月1回
結果： 達成 達成率： 100%

・地域清掃活動



地域清掃活動記録

また、当社は上記ISO14001の取組の一環として月1回の地域清掃を実施し、環境保護、地域社会

への貢献を実施している。今後は東京、大阪等の営業所においても活動の幅を拡大する予定である。

・S B T 認証の取得

当社は自社が設定した温室効果ガスの削減目標について国際的なイニシアチブである「Science Based Targets (S B T)」により科学的根拠に基づいた目標として認定されており、環境省HPにおいても掲載されている。当社の温室効果ガス削減目標は、「①スコープ1およびスコープ2について、2018年度を基準に2030年までに50%削減する」、「②スコープ3において、排出量を測定し削減することを約束する」の2点であり、パリ協定にて目標設定された1.5℃目標に整合的な水準であることが認証された。



2018年度		
スコープ/カテゴリ	排出量 [t-CO2]	割合 [%]
		Scope 1,2
スコープ1+2	2,578.0	100.0%
スコープ1	2,253.4	87.4%
スコープ2	324.6	12.6%

基準年における当社の排出量

③「社会貢献活動」に関する取組

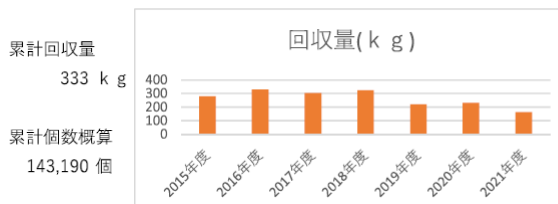
当社の「社会貢献活動」は上記の「安全・健康」や「環境」のカテゴリにおいても連携して行われている部分が多くある。地域清掃や交通安全の啓蒙活動がそれにあたるが、それに加えて当社は寄付活動等によっても地域貢献や教育支援、行政支援を行っている。

・リサイクル物資の回収・寄付活動

当社はペットボトルキャップ、アルミ缶、古切手、ベルマーク等、様々なリサイクル物資等の回収を会社全体で取り組んでおり、地域の社会福祉団体やunicefを通じてワクチンの寄付を実施している。



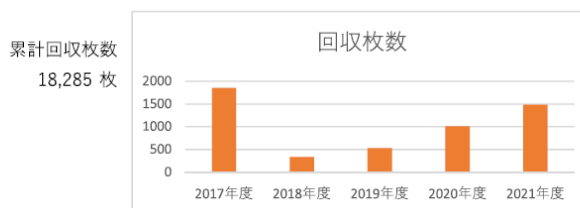
ペットボトルキャップ回収量



アルミ缶回収量



古切手回収量



ベルマーク回収量

累計回収量
333 k g
累計個数概算
143,190 個

累計回収量
1,845 k g
累計寄付金額
116,010 円

累計回収枚数
18,285 枚

累計回収枚数
5,203 枚
累計点数
5,715 点

・自治体への寄付・寄贈



リサイクル品の回収に加え、自治体の教育支援等にも当社は注力しており、2022年2月には刈谷市次世代育成部と連携し、福祉型児童発達支援センター「しげはら園」に手すり付き体重計「バリアフリースケール」の寄贈を実施。今後も刈谷市内の憩いの場への木製ベンチ寄贈等、地域社会の発展へ支援を続ける方針である。

④BCP対策に関する取組

当社は災害対策についても備えを充実している。具体的には①マニュアルの制定及び定期的な見直し、②火災・地震に対する防災訓練の定期実施、③取引先、市町村との連携による各拠点への物資輸送支援体制の確立、④蓄電池や倉庫屋根の太陽光発電による非常用電源による緊急時の電力供給が挙げられる。



蓄電池



防災訓練の様子

当社のESG、CSRに関する取組は、経営陣からのトップダウンだけでなく、従業員一人一人が考え、行動することにより地域社会や交通安全、職場環境改善に大きく貢献していることがわかる。本項での取組の数々は一時的ではなく、すべて継続性がある為、ポジティブインパクトファイナンスにおけるKPIについてもこれらの取組の継続性を考慮して設定する。

4. インパクトの特定

①インパクトマッピングによるインパクト分布

名古屋銀行は事業性評価におけるビジネスモデル（非開示）により藤久運輸倉庫株式会社の主要、関連業種を特定し、UNEP FI が推奨するインパクトマッピングからポジティブインパクト及びネガティブインパクトの分布を調査した。藤久運輸倉庫株式会社の業種カテゴリは多岐に渡る為、分布図は主要業種の掲載に限定する。

分布図中の「★★」は重要な影響があるカテゴリ、「★」は影響があるカテゴリを示す。藤久運輸倉庫株式会社の事業活動については「★★」「★」の影響をすべて検討する。川上・川下の事業活動については藤久運輸倉庫株式会社が直接関与できないため次の事項を検討する。ポジティブ面では川上・川下の事業でポジティブな影響の促進やネガティブな影響の緩和に藤久運輸倉庫株式会社の事業が貢献できることがないか検討する。ネガティブ面では川上・川下の事業において重要な影響があるか影響が及ぶ地域での対応のニーズが強いカテゴリについて、取引関係の管理などを通じて緩和に貢献できるか検討する。

分析の対象となる事業活動がインパクトマッピングの業種分類に含まれる特定の事業の場合、当該事業とは無関係なインパクトカテゴリについては検討しない。

「雇用」に関しては多くの事業においてポジティブ・ネガティブの両面の影響がある。全社的な人事戦略・雇用管理などの横断的な対応について別途検討する。

②インパクト分布図（掲載は主要業種のみ）

・川上の事業

インパクトカテゴリ	川上の事業															
	【 0710 】		【 1622 】		【 1702 】		【 2220 】		【 2610 】		【 2620 】		【 2910 】		【 2930 】	
	鉄鉱業		建築用木材及び建具製造業		段ボール及び板紙並びに紙製・板紙製容器製造業		プラスチック製品製造業		電子部品及び基板製造業		コンピュータ及び周辺装置製造業		自動車製造業		自動車部品及び付属品製造業	
	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ
水（入手）		★★												★★		
食料																
住居			★						★							
健康・衛生		★						★	★					★★		★★
教育																
雇用	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
エネルギー																
移動手段													★★	★	★	★
情報									★							
文化・伝統																
人格と人の安全保障		★★														★
正義																
強固な制度・平和・安定																
水（質）		★★		★		★★		★★		★		★		★		★
大気		★		★		★		★		★		★		★		★
土壌		★★						★★		★		★		★		★
生物多様性と生態系サービス		★★														
資源効率・安全性		★★		★		★		★		★		★		★★		★★
気候		★		★		★		★		★		★		★★		★★
廃棄物		★★		★		★★		★★		★		★		★		★
包括的で健全な経済	★		★		★		★		★		★		★		★	
経済収束													★		★	

川上の企業におけるインパクトは上記の通りである。経済におけるポジティブと、環境におけるネガティブが散見される。当社の事業において、川上の企業への能動的なアクションは当社の物流ネットワーク及び在庫管理システムを提供することによる受注先の経済的発展によるポジティブ拡大と、効率的な輸送ソリューションに伴う CO2 排出量削減によるネガティブ縮小が挙げられる。後述の当社の事業においても同様でありこれらの事業活動について KPI を設定する。

・当社の事業

インパクトカテゴリ	当事業											
	【 4923 】		【 5120 】		【 5210 】		【 5221 】		【 5229 】		【 6209 】	
	道路貨物運送業		航空貨物運送業		倉庫・保管業		陸運に附帯するサービス活動		その他の運輸支援活動		その他の情報技術及びコンピュータ・サービス業	
	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ	Positive ポジティブ	Negative ネガティブ
水（入手）												
食料												
住居												
健康・衛生		★★		★★								
教育												
雇用	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
エネルギー												
移動手段	★						★					
情報												
文化・伝統												
人格と人の安全保障												★
正義												
強固な制度・平和・安定												
水（質）												
大気		★★		★★		★						
土壌		★★										
生物多様性と生態系サービス		★★		★								
資源効率・安全性		★★		★★								
気候		★★		★★		★						
廃棄物		★		★				★		★		
包括的で健全な経済	★		★		★		★		★		★	
経済収束												

物流事業全般における当社のインパクト分布は上記の通りである。環境面でのネガティブインパクトは、大気、気候が目立つ項目である。道路貨物運送業である以上、避けられないネガティブインパクトであるが、当社の提供するサービスにはより効率的な物流を提供することが含まれる為、事業拡大によることでネガティブを縮小できる側面がある。また、当社は前述の環境面での取組において CO2 排出量算定及び削減についても取り組んでいる為、両側面からネガティブ縮小の KPI を設定する。

・川下の事業

インパクトカテゴリ	川下の事業																	
	【 4510 】		【 4530 】		【 4540 】		【 4651 】		【 4652 】		【 4659 】		【 4663 】		【 4741 】		【 4759 】	
	自動車販売業		自動車部品・付属品販売業		オートバイ及び関連部品・付属品販売・整備・修理業		コンピュータ、コンピュータ周辺装置及びソフトウェア卸売業		電子・電気通信機器及び部品卸売業		その他機械器具卸売業		建築材料、金物類及び配管・暖房設備器具卸売業		専門店によるコンピュータ、周辺装置、ソフトウェア及び電気通信機器小売業		専門店による家庭用電気製品、家具、照明器具及びその他の家庭用品小売業	
	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ	ポジティブ	ネガティブ
水（入手）																		
食料																		
住居																		
健康・衛生		★		★		★							★				★	
教育																		
雇用	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★
エネルギー															★			
移動手段	★★		★		★													
情報							★		★						★			
文化・伝統																		
人格と人の安全保障																		
正義																		
強固な制度・平和・安定																		
水（質）								★		★		★		★				
大気		★		★		★		★		★		★		★				
土壌						★												
生物多様性と生態系サービス								★		★		★		★				
資源効率・安全性		★		★		★												
気候		★		★		★		★		★		★		★				
廃棄物		★		★		★		★		★		★		★		★		★
包括的で健全な経済											★				★		★	
経済収束																		

川下の事業においては、主に顧客の納品先となるケースが多く、多岐に亘る為、ここでは主要な事業に限定して掲載する。当社からのアプローチによるポジティブの拡大及びネガティブの縮小は困難であるが、自動車部品や電子機器の納品先における自動車製造・販売、電子機器製品販売においては移動手段、情報にポジティブ拡大が見られる。当社としては、自社事業の拡大に伴いそれらのポジティブ拡大に寄与すると共に、環境面の負荷拡大を抑制する活動を実施することでネガティブの縮小に努める。

・インパクト分布のまとめ

主要事業の分析結果として「道路貨物運送業」から「雇用」、「移動手段」、「包括的で健全な経済」にポジティブインパクトが期待できる。移動手段、物流の充実による経済発展と、従業員の充実した職場環境形成に KPI を設定する。また、地場である愛知県刈谷市における重要な物流拠点となっている観点から、当社の理念である社会貢献についても、地域と連携した活動を実施することに KPI を設定する。

これらを推進しつつ上記分布にある事業活動が及ぼすネガティブな影響への配慮が必要である。環境面におけるネガティブが散見されることについて、CO2 排出量削減等の KPI を設定する。

尚、特に重要なインパクトカテゴリと対応するSDGsのゴールは、下記の通りである。

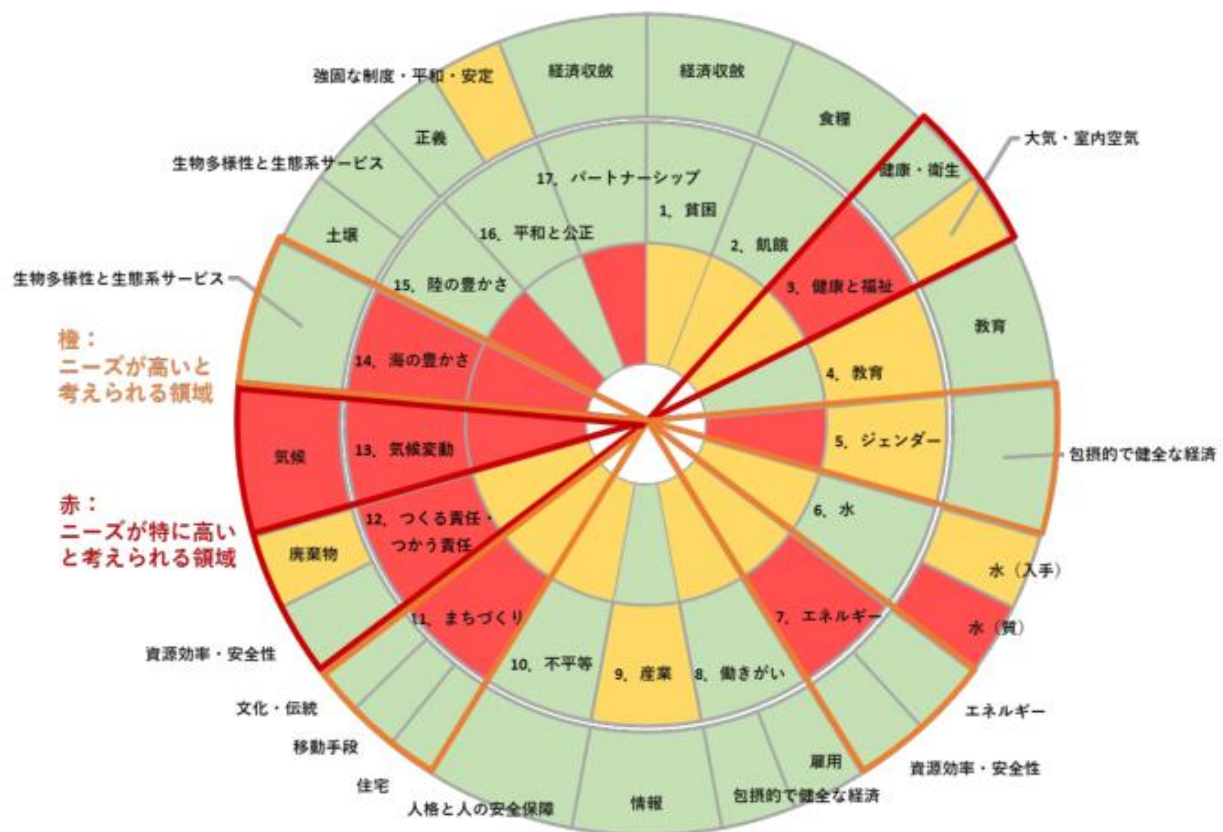
※対応するSDGsのゴール



③国内のインパクトニーズ

環境省が策定した「インパクトファイナンスの基本的考え方」における国内のインパクトニーズは下記の図によって表される。特に取り組むべきSDGsを赤色、取り組むべきであるが不十分なSDGsを黄色、その他を緑色としているものである。

名古屋銀行が特定した藤久運輸倉庫株式会社のインパクトと対応するSDGsのゴール「3、9、11、12、13、14、15、17」に対して、全て赤色もしくは黄色のゴールに該当するものとなっており、国内のインパクトニーズとの整合的である。

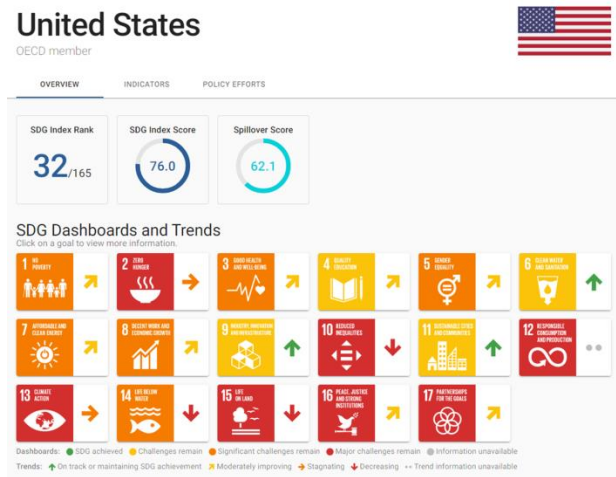


④海外のインパクトニーズ

藤久運輸倉庫株式会社の取引先における売上構成上位先は自動車部品製造事業であるため、海外のインパクトニーズについても自動車の利用率や人口を基準として先進国における整合性を分析する。下記に示したのは、上記国々の SDG s インデックス&ダッシュボード 2021 を参照したものである。緑で配色されたゴール以外は、色が薄い順に「課題がある」、「重要な課題がある」、「多大な課題がある」となっている。

特定したインパクトに対応する SDG s のゴールは、それぞれの国々においても重要度が高いことが確認出来る。

※各国のインパクトニーズ



絆をつくる、明日へつなぐ。



名古屋銀行

Germany

OECD member



OVERVIEW INDICATORS POLICY EFFORTS



SDG Dashboards and Trends

Click on a goal to view more information.



Dashboards: ● SDG achieved ● Challenges remain ● Significant challenges remain ● Major challenges remain ● Information unavailable
Trends: ● On track or maintaining SDG achievement ● Moderately improving ● Stagnating ● Decreasing ● Trend information unavailable

France

OECD member



OVERVIEW INDICATORS POLICY EFFORTS



SDG Dashboards and Trends

Click on a goal to view more information.



Dashboards: ● SDG achieved ● Challenges remain ● Significant challenges remain ● Major challenges remain ● Information unavailable
Trends: ● On track or maintaining SDG achievement ● Moderately improving ● Stagnating ● Decreasing ● Trend information unavailable

5. 測定するKPI

①自社の物流ネットワーク活用による経済成長と品質向上（ポジティブ拡大）

項目	内容
インパクトの種類	経済面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「包括的で健全な経済」
関連するSDGs	 
対応方針	物流ソリューション事業の拡大による経済活動の活発化
KPI	・2027年決算期までに販売物流案件の年間売上高を50億円以上にする（取組開示） ・調達物流案件の年間受注を毎年百万円以上にする（実績開示）

②育児休暇、健康経営、職場環境改善による従業員のモチベーションアップ（ポジティブ拡大）

項目	内容
インパクトの種類	社会面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「雇用」
関連するSDGs	  
対応方針	人的資本経営を取入れ、従業員の健康経営・職場環境の向上
KPI	・2027年度決算期までに育児休暇取得率を100%にする（実績開示） ・2027年度決算期までに健康経営優良社員の割合を35%まで引き上げる（実績開示） ・改善提案制度による従業員からの提案について、年間100件以上実施する（取組開示）

③地域社会、自治体と連携した住みやすい社会への貢献（ポジティブ拡大）

項目	内容
インパクトの種類	社会面・経済面でポジティブインパクトを拡大
インパクトカテゴリ	「健康・衛生」「包括的で健全な経済」
関連するSDGs	   
対応方針	地域社会の発展への貢献、自治体と連携した交通安全の啓蒙
KPI	・月一回の地域清掃を継続し、参加率向上を目指す（取組開示） ・幼児園児のイラスト入りラッピングトラック等、安全教育の啓蒙活動が続ける（取組開示） ・自治体等との連携を深め、寄贈、人的支援により地域活性化へ貢献する（取組開示）

④環境への影響の配慮（ネガティブ縮小）

項目	内容
インパクトの種類	環境面でネガティブインパクトを縮小
インパクトカテゴリ	「健康・衛生」「水（質）」「大気」「土壌」「資源効率・安全性」「気候」「廃棄物」
関連するSDGs	    
対応方針	サーキュラーエコノミー・カーボンニュートラル実現に向けた積極的な取組み
KPI	・2027年決算期までにマイカー、社用車1台あたりのCO2排出量を1 t CO2未満にする（実績開示） ・取得済ISO14001認証の更新・維持（実績開示） ・2027年決算期までの5年間で当社CO2排出量を2018年対比で20%削減する（実績開示）

6. インパクトの管理体制

藤久運輸倉庫株式会社は久米社長を中心としてサステナビリティ経営充実の為の施策を各事業部及び経営管理部が連携してSDGsの施策を検討・実施・検証する体制が整っている。

めいぎん PIF におけるインパクトについては、久米社長と経営管理部が中心となり、管理・達成へ向けた施策を実施する。

インパクト管理者

最高責任者	代表取締役 久米 博明
管理責任者	経営管理部 部長 福本 裕二
管理部署	経営管理部

7. モニタリング方法

藤久運輸倉庫株式会社に対するめいぎん PIF のモニタリングは、インパクト管理者と名古屋銀行の担当者（法人営業部サステナビリティ推進担当及び営業店担当者）により年 1 回以上の協議を通して実施する。年 1 回以上の協議は、下記のプロセスで行われる。

項目	内容
1. 内容報告・実績開示	設定した KPI の達成度を確認する。
2. 検証・精査	達成度について開示された情報を名古屋銀行が確認する。
3. 修正の検討	達成度・進捗度を検証し KPI の修正を検討する。
4. 追加の検討	形骸化を防ぐ為、KPI の追加や削除を検討する。

名古屋銀行は上記のプロセスにおいて、自行のサポート及びアドバイスを実施する。また、モニタリング実施状況については、株式会社格付投資情報センターに対し、包括的な年次レビューを受ける。

8. 総括

藤久運輸倉庫株式会社の事業内容及びインパクト調査の結果、手がける事業それぞれにポジティブ及びネガティブな影響を確認した。藤久運輸倉庫株式会社が KPI 達成を目指すことで社内、地域社会及び地球環境全体への大きな貢献が想定され、UNEP FI の「ポジティブインパクト金融原則」、ESG及びSDGsの観点からも十分な適合性を確認した。